

イネ科通信 34

ミノボロモドキ

2014/05/17

まれに港湾近くなどにみられる外来の1年草（日本イネ科図譜・平凡社・長田武正著）ということなので大阪南港はまさにこれにあてはまりますが、これは25年前の記述です。舞洲にも多数のミノボロモドキが生えています。その他大和川下流、堺市の鉢ヶ峰、岩湧山にも広がっているとの報告があります。このことから、かなりの広範囲に定着していると思われます。

ミノボロモドキの花期は4～5月、円錐花序は小穂を密生して隙間がなく、やや扁平で下方の幅が広く、長さ3～6cm、幅0.5～1cm、小穂は長さ4～5mm、3～4小花からなっています。稈の高さは10～50cm位です。（日本イネ科図譜・長田武正著より）南港では数年前までは咲洲運河沿いに生えていましたが、2年前？から南港の方々（とくに広い路沿い）に見られるようになりました。



緑道に生えているミノボロモドキ



ミノボロモドキは1年草（ヒゲ根）



花序を拡大（オシベの葯と芒がみえる）



小穂を拡大（2枚の包穎と3小花がみえる）